転載・コピー・他への引用禁止

# 八木田町内会 自主防災部会の在り方について

東日本大震災後、自治体の指導の下、各自治組織（町内会など）に「自主防災組織」を作り上げて来ました。

**この基本は、「自助」、「共助」そして「公助」でした。**

八木田町内会 自主防災部会は、「防災計画」等のマニュアルを基に、毎年「防災訓練」「班長説明会」「救命法講習会」等を通じて、啓発、啓蒙活動を進めて来ました。

**問題は、本当に。「イザという時」、「自助」⇔「共助」が、出来るのかです？**

このような中で、山村氏が提唱する「**近助**」（自分達に出来る！）の重要性だと想います。

**この「自助」に「近助」を加え、私たちの自主防災部会に、どのように組み込み、活かしていくことが課題と考えます。**

以下に、山村氏の提唱を抜粋してみました。

防災システム研究所 山村武彦氏の提唱する

## 「近助」「互近助付き合い」「防災隣組」

**★近助の精神**

**少子高齢化社会では、従来の「自助」と「共助」の間に「近助」という概念が不可欠です。**べたべたした付き合いはせず、普段から「ほどよい距離感」で隣人に関心を持ち、困っているな、変だなと思ったら、いつでも近くにいる人が声をかけ、助け合う、傍観者にならない心、それが「**近助の精神**」です。

**★近助（きんじょ）**

**地域防災は「自助」、「共助」が基本といわれます。私はそれに「近助」を加えることを提唱しています。**

日頃の見守りや災害発生時は遠くのみんなより、家族、隣人、向こう三軒両隣など、近くにいる人が頼りになります。みんなで助け合う「共助」と共に、顔の見える近くにいる人が近くの人を助ける「近助」です。

**少子高齢化社会では「近助」の支え合いが不可欠。**

「**近助**」は、地域だけでなく、学校、職場、出先などその場その場で、困った人、手を貸す必要のある人を近くにいる人が助けます。当たり前のことが当たり前になれば、これからもずっと住みたいまちになるのです。

**★防災隣組 10 則**

**1、ほどよい距離感で（結び目はあまり固く結ばない、べたべたしない。プライバシーには深入りしない）**
**2、困ったときはお互い様の心**
**3、挨拶は先手必勝（相手がしたらしようと思わず、気付いた方から先にいう）**
**4、気持ちよい前向き挨拶（「嫌な雨」というより「良いお湿り」というように、プラス志向で）**
**5、日常行事に積極参加・参画（役割を分担する）**
**6、欲張らないで、身近なことからコツコツと続ける**
**7、回覧板は、顔見て挨拶しながら手渡しで**
**8、いざという時は、ためらわないで自分から声かけて**
**9、向こう三軒両隣で安否確認チーム（同じ時代同じ地域に住む運命共同体）**
**10、できる人が、できる時に、できることを、無理なく、自分のために、楽しんで**

転載・コピー・他への引用禁止

**★互近助(ごきんじょ)**

互いに近くで助け合うのが「ごきんじょ」です。近くにいる元気な人が助けを必要とする人を助けるのです。

**★防災隣組**

災害発生直後に全ての家に消防、警察、自衛隊、民生委員が駆けつけることはできません。

町内会・自主防災会の中に向こう三軒両隣で助け合う「**互近助**」「**防災隣組**」という安全の仕組を作ることが大切です。

**★助けることができるのは近くにいる人**

阪神・淡路大震災(1995 年)発生

そのとき、建物の下敷きなどになって自力で脱出できない**自力脱出困難者約35,000人のうち、77%は家族や近隣住民によって助け出されました。**

阪神・大震災で亡くなった人のうち約84%は、地震発生後14分以内に死亡しています(兵庫県監察医調べ)。

**早く助けることができるのは近隣の人たち**なのです。

従来から地域防災の決め手は「**自助**」「**共助**」「**公助**」とされてきました。

共助は自主防災組織へと発展しましたが、その自主防災組織を支え中核をなすのが向こう三軒両隣の**防災隣組であり安否確認チーム**、つまり「自助」と「共助」の間を埋める「**近助**」なのです。

さらに、防災隣組・安否確認チームだけでなく、防犯協会、福祉委員、児童委員、婦人会、老人会、青年団、消防団、スポーツクラブ、PTAなど既存のグループ・団体の助けを求め幅広く「近助の精神」を生かしていただければ近助力を高めることができます。

**★ほどけた人と人の結び目を結び直す**

安全・あんしん街づくりの一環として、地域の絆を取り戻す必要があるといわれ続けていますがその具体策が見えていないのが実情です。

そこで私が提案するのは「**近助の精神**」「**防災隣組**」「**互近助付き合い**」の啓発運動です。

**★「防災隣組」をつくり、回覧板は手渡しで・・・**

「近助の精神」には助けるほうの理解と協力だけではなく、助けられる側の理解と協力も不可欠です。

自主防災組織や町内会の中に**防災隣組の安否確認チームを作るべき**です。

私は防災隣組同士で「**回覧板は手渡しで・・**」と提案しています。

「回覧板です」と声をかけてほしいのです。顔を合わせればひとことふたこと言葉を交わすようになり、また、その家の人がどんな人なのか、いつも昼間は留守なのかなど、たとえわずかであっても隣人の情報を知ることができます。

**イザっという時だけは声を掛け合い、安否確認ができるようにするのが防災隣組です。**

転載・引用:http://www.bo-sai.co.jp/kinjyonoseisin.html(山村　武彦著)